

トピックス

森林整備の大切さを実感

管内の各市町村では、県民一人一人が参画する新たな森林づくりを推進するため、森林環境税を財源とした森林環境交付金(基本枠)事業を活用して、森林環境学習の実施に取り組んでいます。

今年度は、36の小・中学校等で植林や保育体験・森林観察・木工工作・キノコの植菌体験等を学習内容として実施しています。さらに森林ボランティア団体やもりの案内人等を指導者として、市町村独自の森林整備箇所をフィールドとして活用するなど、特色のある内容となるよう工夫が凝らされています。



広葉樹植栽体験(相馬市)

児童たちは、森林の働きや森林整備の大切さ、森林の恵みの利活用について熱心に学んでおり、森林を守り育てる意識が着実に育まれています。

(森林林業部)

地産地消フェアで
食と農の絆を深める

去る10月27日(土)、道の駅「南相馬」、ひがし生涯学習センターを会場として、第3回目となる「大地の恵み感謝祭in相双」を開催しました。



今年度は、「食と農の絆づくり」をテーマとして、「農林ウルトラクイズ」「親子クッキング教室」「チャレンジ豆腐づくり」「木工工作体験」「農林業ミステリーツアー」など43のコーナーを設置し、多くの方々の協力のもと、「ふくしま食と農の絆づくり運動」の一環として実施しました。

当日は、台風の影響であいにくの天候となりましたが、各出展者や農林事務所職員などが長期間にかけて練り上げた、「触れて、作って、味わってみる」体験企画などにより、約800名の来場者は思い思いにイベントを楽しんでいました。

特に、10mにもおよぶ手巻き寿司づくりは、相双管内の農業者が生産した有機米や有機レタスなど農林水産物を材料として、会場を訪れた消費者の方々が作り上げ、食と農の絆づくりを深める象徴的な企画となりました。

(地域農林企画室)

香港での評価は上々

—黄色いハート「香港フェア」に出品—

福島県と日本貿易振興機構福島の主催による「ふくしま産品フェアin香港」が10月24日から1週間開催され、相馬地方産のカボチャが出品販売されました。

カボチャの輸出は本県では初めてで、10月4日に神戸港から船積みされました。

今回出品されたカボチャは貯蔵性のよい「白い九重栗」25箱(10kg/箱)です。

香港での評価は上々で、高値で販売されるとともに、早速50箱の引き合いがありました。今回はテストケースとしての輸出でしたが、今後、検疫の問題や輸送



「香港フェア」での出店の様子

費や取引価格等の経済性を考慮しながら、輸出を視野にいたった栽培拡大が期待されます。

(農業普及部)

ふくしま食・農再生戦略関連情報

双葉南小 小野田さん最優秀賞を受賞

—米飯学校給食拡大推進ポスターコンクール開催—

近年、食生活の変化に伴い、主食である米の消費量が減少するとともに、栄養バランスの良い「日本型食生活」が崩れてきており、生活習慣病の増加などの問題が生じています。このため、県では、毎月8日を「ごはんの日」とし、健康的で豊かな「日本型食生活」の良さを知っていただき、おいしい県産米をしっかりと食べていただくよう呼びかけています。

特に、子供の頃の食生活が重要であることから、米飯学校給食の拡大に取り組んでおり、その一環として、小・中学生を対象とし、ごはん食の有効性に関心を高めていただけるよう、米飯給食拡大推進ポスターコンクールを実施しました。

相双地区の小・中学校からは705点の応募があり、



双葉南小(3年生)小野田さんの作品

全県の応募総数4816点の中から、双葉町立双葉南小学校3年生の小野田安紗さんの作品が、小学校低学年部門で最優秀賞を受賞しました。

(農業振興部)

食育関連情報

花ずしづくりに挑戦

『食の楽校』南相馬市立福浦小学校の食育

福島県では、平成19年3月に「おいしくイキイキ 食育プラン(福島県食育推進計画)」を策定し、県保健福祉部、農林水産部、教育庁をはじめ関係団体が連携して、食育の推進に積極的に取り組んでいます。

「食の楽校」は、地域の食や水田・畑・海などの豊かな環境における体験学習を通して、いのちと健康を支える農林水産業の理解促進や地域の食文化の継承をはかることを目的とし、県内各地方の小学校7校で開校しました。

相双地方の指定校である南相馬市立福浦小学校では、地域の関係機関と連携し、これまで総合学習で行っていた田植え・稲刈り体験や農作物の栽培体験、新たに始めたキノコ栽培体験や地域産物を利用した料理教室(うどん打ち、豆腐づくり、花ずしづくり)等、様々な食と農に関する体験を通して食育を推進しています。(地域農林企画室)

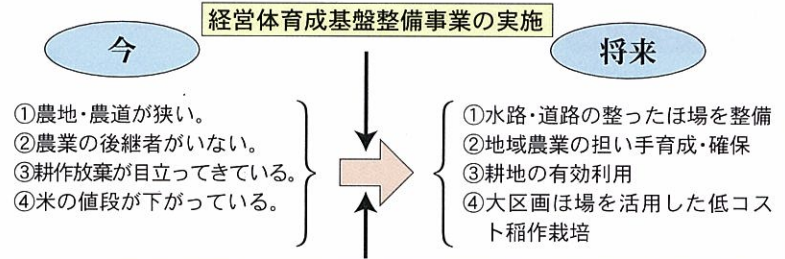


収穫したお米を使った花ずしづくり

特集

ほ場整備の実施を契機とした地域農業の確立を目指して ～経営体育成基盤整備事業～

経営体育成基盤整備事業とは、国の補助事業で、ほ場の整備と一体的に地域農業の担い手を育成するために実施される事業です。



地域において、現状を打破し、将来に夢を託す活発な話し合いを実施

* 経営体育成基盤整備事業大井塚原地区における取組事例(平成19年度時点) *



- ①予定工期;H11年度～H20年度
- ②総事業費;28億5,700万円
- ③受益面積;146ha
- ←(作業受委託契約締結調印式)



地域農業の確立を目指して話し合いを重ね、平成19年度は、水稲43haと大豆44haの合計87haについて、耕作者167名が大井塚原生産組合に農作業を委託するための契約を締結し、農作業を行いました。←(大豆播種及び除草剤散布状況)

随想

富岡林業指導所長 橋内 雅敏

私事になりますが、私は阿武隈山地の北端に近い山村に生まれ育ちました。子供の頃は山の中に小屋を作ったり、そりで急な落ち葉の山道をころげ落ちたりというような思い出が様々なケガと共によみがえります。

今の子ども達とはいいますと、自然は学ぶ対象ではあっても遊ぶ対象にはならず、傷みの経験できない安全な与えられた物の中の世界に満足する、そういう意味ではかわいそうですし、そのような社会を構築してきた昭和半ばまでの世代の責任に帰するのであろうと思います。

残念ながら現在の林は、当時とは大部様変わりしています。松枯れは、松くい虫の他、過度の植栽や大気汚染も一因であるとか、足を踏み入れることも困難な森林の増加は、木材価格の低迷(40～50年前と同価格)による手入れ意欲の減退が一因である等の言葉が聞かれて久しいのですが、根本的には森林が生活の一部でなくなり得なくなったことだろうと思います。以前は林内の枯れ木を炊事や風呂の燃料に、枯れ葉も堆肥等に利用しましたから、どこでも歩けるほどきれいでした(生活に根ざした「里山」です)。またアカマツは、根に付くマツタケ等から養分を得ていますが他の菌には弱く、木や葉が運ばれないで堆積し雑菌の巣になると病気に罹りやすくなります。とは言いましても、今更燃料を元に戻すことは不可能です。

県では、皆様の協力のもと、平成18年から森林環境税で間伐等を行っています。少しずつ手入れされた森林が蘇っている(勿論、地道に手入れしている森林所有者の方々も

られます)のですが、昔と異なり森林に燃料等としての必然性が見いだせない中では、若い世代と共に作業を体験し、森林の大切さを伝えていくことが、私たち昭和半ばまでの世代の責務かと思われてなりません。



お知らせ

「ふくしま食と農の絆づくり運動」の
ロゴマークとキャッチコピーができました。



ふくしま食と農の絆づくり運動

■ロゴマーク

全体的には、「ふくしま」の「ふ」の文字をイメージしています。「食」をイメージする「箸」、「農」をイメージする「稲穂」、農業者の皆さんと消費者の皆さんが無限大に手をつなぐことをイメージした「oo」を組み合わせた、お互いが価値観を共有し、相互理解を深め、交流を拡大し、両者の絆をつなぎながら、福島県の農業が持続的に発展していくことを象徴しています。

■キャッチコピー「ふるさとでつながる食と農」 私たちの「ふるさと」ふくしまの「食」と「農」を大事にしていこうという気持ちを表現しており、福島県の農業を持続的に発展させるために、消費者と農業者の相互理解や、価値観の共有等が必要であることを端的に表現しています。

※ロゴマーク・キャッチコピーを使用したい場合には、福島県相双農林事務所地域農林企画室までご連絡下さい。

ご意見・ご感想・PRしたい情報などをお寄せ下さい。

福島県相双農林事務所 地域農林企画室

〒975-0031 福島県南相馬市原町区錦町一丁目30番地 TEL:0244-26-1177 FAX:0244-26-1169

ホームページアドレス <http://www.aff.pref.fukushima.jp/sousou/>